

言語文化学専攻

—学位授与・教育課程編成・入学者受入れの方針—

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位の前提となる教育理念】

言語文化学専攻は、急速に変化する国際情勢のもとで、教育現場や国際交流の現場において、他職種とも協働しながら豊かな教養と専門性を持って活躍できる人材を育成することを目的としています。本専攻の日本アジア言語文化学コース、ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コースでは、言語と文学を研究対象の中心に据え、それに密接に関連する文化の諸現象全般にも注意を払いつつ、課題を確実に把握し、その上に立って、より大きな展望にいたることを目指します。

【身につけるべき力】

- ・文献資料の読み解きを通して培われる、現実に対する確かな認識と判断力
- ・人間のコミュニケーションへの理解に根ざした、高度な言語運用能力
- ・対象を的確に把握し、そこから得られた知見を自ら社会に発信する力

【学位授与の要件】

上記の資質・能力を身につけ、所定の期間在学して所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで修士論文の審査に合格した学生に修士（文学、学術のいずれか）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

学生は履修系列として、高度な専門的能力を養成する専修系、広い視野を備えた多様なタイプの優秀な人材を育成する複合系のどちらかを選択し、以下の科目群から履修します。教養科目群では大学院生に必要な教養を培います。専門群では特論、演習を通して高度な専門教育を行います。論文等作成群では修士論文の執筆に向けて指導を行います。

【教育の内容と方法】

本専攻では、日本、中国、イギリス、アメリカ、ドイツ、フランスなど各地域の言語と文学の研究を通して、言語文化の伝統と革新、人間のコミュニケーション活動の実践について学び、日本文化と異文化を深く理解して、自らの知見を世界に向けて発信する力を身につけることを目指しています。

また学際的視野からものごとを俯瞰する能力、実社会で必要とされる企画・調整力及び他者と協働する力を培うための大学院教養科目を必修としています。さらに文学部からの6年一貫教育プログラムでは、学部から修士論文作成まで継続的に研究を行い質の高い修士論文を目指すとともに、留学など学外での学修を自ら柔軟に設計することが可能です。

【学修成果の評価】

学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。修士論文は、提出された論文と口頭試問により評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

言語文化学専攻には、日本・中国およびヨーロッパ・アメリカの言語や文学を専門とし、さまざまな方法で研究を行う教員が集っています。この多様性を活かして、例えば、日本近代文学を専門としつつ、フランス文学理論をあわせて学んだり、写本の一字一字を丹念に読む文献学的方法と、コンピュータによるテキスト分析の方法を共に身につけるなどといった、自分の研究テーマをしっかりと持ち、かつ幅広い視野に立った研究にチャレンジする学生を求めます。

【求める学生像】

上記の教育理念にもとづき、次のような資質と能力を有する学生を求めます。

- 専門分野に関する基礎的知識
- 資料や文献を読み解くための語学力
- 調査結果や文献などを適切に分析し、論理的に説明する能力
- 大学での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
- 社会生活に根ざした真摯な問題意識
- 大学院における研究を社会に還元する意欲

【入学者選抜の基本方針】

コースごとに、一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜、6年一貫教育プログラム特別選抜を実施します。大学院で学ぶために必要な専門知識や研究を計画し実施する能力を測るために、筆記試験と口述試験を行って選抜します。

(言語文化学専攻 日本アジア言語文化学コース)

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位の前提となる教育理念】

日本アジア言語文化学コースは、東アジアの諸文献および文芸、言語コミュニケーションに対する深い理解のもと、古今の文化事象を独自の視点で探求し、その知見を社会に還元できる人材を育成することを目的としています。深い専門性と豊かな教養をそなえ、他領域とも協働しながら、主体的に新たな地平を切り拓く力を養うことを目指します。

【身につけるべき力】

- ・東アジアの言語文化に対する深い理解のもと、諸文献をさまざまな視点から読み解く力
- ・資料の緻密な調査・分析を通して培われる、確かな認識と判断力
- ・深い洞察によって得られた新たな知見を、的確なことばで社会に発信する力

【学位授与の要件】

上記の資質・能力を身につけ、所定の期間在学して所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで修士論文の審査に合格した学生に修士（文学、学術のいずれか）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

学生は履修系列として、高度な専門的能力を養成する専修系、広い視野を備えた多様なタイプの優秀な人材を育成する複合系のどちらかを選択し、以下の科目群から履修します。教養科目群では大学院生に必要な教養を培います。専門群では日本・中国の言語や文学に関する特論、演習を通して高度な専門教育を行います。論文等作成群では修士論文の執筆に向けて指導を行います。

【教育の内容と方法】

日本アジア言語文化学コースでは、日本・中国を中心とした各地域の言語と文学の研究を通して、言語文化の伝統と革新、人間のコミュニケーション活動の実践について学び、日本と中国を中心とした東アジア文化の諸相とその国際的位置づけを深く理解して、自らの知見を世界に向けて発信する力を身につけることを目指しています。また学際的視野からものごとを俯瞰する能力、実社会で必要とされる企画・調整力及び他者と協働する力を培うための大学院教養科目を必修としています。さらに文学部からの6年一貫教育プログラムでは、学部から修士論文作成まで継続的に研究を行い質の高い修士論文を目指すとともに、文献調査や留学など学外での学修を自ら柔軟に設計することが可能です。

【学修成果の評価】

学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。修士論文は、提出された論文と口頭試問により評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

日本アジア言語文化学コースは、日本・中国の言語や文学作品を中心に、東アジアの言語文化を広く視野におさめながら研究するコースです。古代から現代にいたる日本語の歴史、上代文学、中古～近世の物語・和歌・諸文芸、近現代文学、出版文化、さらには古典から現代におよぶ中国文学・中国語学など、研究領域は多岐にわたります。これらの諸領域について、確かな知識と調査・分析方法にもとづいた深い探求を行うとともに、領域横断的に考察を進め、独創的な知見を社会に発信する力を培います。

【求める学生像】

上記の教育理念にもとづき、次のような資質と能力を有する学生を求めます。

- 日本・中国の言語や文学に関する基礎的知識
- 日本・中国を中心としたさまざまな時代や地域の資料や文献を読み解くための語学力
- 調査結果や文献などを適切に分析し、論理的に説明する能力
- 大学での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
- 社会生活に根ざした真摯な問題意識
- 大学院における研究を社会に還元する意欲

【入学者選抜の基本方針】

日本アジア言語文化学コースで学ぶ上で必要とされる日本あるいは中国の言語・文学に関する基礎学力を、提出書類（卒業論文あるいは研究計画書）および筆記試験、口述試験に基づき評価します。

一般選抜

筆記試験では、専門科目（日本あるいは中国の言語・文学）を課し、専門分野に関する基礎知識、専門とする時代・地域の文献を読み解く力、論理的に思考し的確なことばで表現する力を測ります。口述試験では、主体的に学ぼうとする意欲、明確な研究展望、言語コミュニケーション能力を評価します。

社会人特別選抜

筆記試験では、専門科目（日本あるいは中国の言語・文学）を課し、専門分野に関する基礎知識、

専門とする時代・地域の文献を読み解く力、論理的に思考し的確なことばで表現する力を測ります。口述試験では、主体的に学ぼうとする意欲、明確な研究展望、言語コミュニケーション能力を評価します。

外国人留学生特別選抜

筆記試験では、専門科目（日本あるいは中国の言語・文学）を課し、専門分野に関する基礎知識、専門とする時代・地域の文献を読み解く力、論理的に思考し的確なことばで表現する力を測ります。口述試験では、主体的に学ぼうとする意欲、明確な研究展望、日本語の理解・表現能力を評価します。

6年一貫教育プログラム特別選抜

書類審査により、6年一貫教育プログラムのもとで行われた調査・研究状況、今後の研究展望、主体的に学ぼうとする意欲を評価します。

（言語文化学専攻 ヨーロッパ・アメリカ言語学コース）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位の前提となる教育理念】

ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コースは、欧米の言語、文化を広い視野から学際的に研究し、国際的な問題に取り組んで社会に貢献する人材を養成します。専門分野に係わる言語を駆使する能力、論理的に思考する能力を高めて、それを新たな課題に活用させることを目指します。

【身につけるべき力】

- ・人間のコミュニケーションへの理解に根ざした、高度な言語運用能力
- ・幅広い文献資料の読み解きをもとにして研究を進め、新しいものを創造する力
- ・欧米の多様な文化を学ぶことで培われた国際的な知見を活用して、社会における様々な課題を解決する力

【学位授与の要件】

上記の資質・能力を身につけ、所定の期間在学して所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで修士論文の審査に合格した学生に修士（文学、学術のいずれか）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

学生は履修系列として、高度な専門能力を養成する専修系、広い視野を備えた多様なタイプの優秀な人材を育成する複合系のどちらかを選択し、以下の科目群から履修します。教養科目群では大学院生に必要な教養を培います。専門群では、英語学・言語学、イギリス文学、アメリカ文学、ドイツ文学、フランス文学に関する特論、演習を通して高度な専門教育を行います。論文等作成群では修士論文の執筆に向けて指導を行います。

【教育の内容と方法】

ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コースでは、イギリス、アメリカ、ドイツ、フランスなど、ヨーロッパ・アメリカの言語と文学の研究を通して、言語文化の伝統と革新、人間のコミュニケーション活動の実践について学び、異文化を深く理解して自らの知見を世界に向けて発信することを目指しています。また学際的視野からものごとを俯瞰する能力、実社会で必要とされる企画・調整力及び他者と強調する力を培うための大学院教養科目を必修としています。さらに文学部からの6年一貫教育プログラムでは、学部から修士論文作成まで継続的に研究を行い質の高い修士論文を目指すとともに、

留学など学外での学修を自ら柔軟に設計することが可能です。

【学修成果の評価】

学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。修士論文は、提出された論文と口頭試験により評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コースは、欧米の言語と文学作品を中心に、日本の言語文化との比較も視野に入れて、欧米の言語文化を研究するコースです。英語学・言語学、イギリス文学、アメリカ文学、ドイツ文学、フランス文学の五分野において、語学力を駆使して文献を読み解き、幅広い学際的な研究を進めます。欧米の多様な言語文化を研究することで培われた国際的な知見と判断力をもとに、社会における様々な課題を解決し、新たなものを創り出す能力を備えた人材を育成します。

【求める学生像】

上記の教育理念にもとづき、次のような資質と能力を有する学生を求めます。

- 英語学・言語学、英米文学、ドイツ文学、フランス文学に関する基礎的知識
- 英語、ドイツ語、フランス語で書かれた資料や文献を読み解くための語学力
- 調査結果や文献などを適切に分析し、論理的に説明する能力
- 大学での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
- 現代の多様で複雑な社会生活に根ざした真摯な問題意識
- 研究で得た知見や能力をもとにして国際社会における新たな課題に取り組む意欲

【入学者選抜の基本方針】

ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コースで学ぶ上で必要とされる英語、ドイツ語、フランス語の言語能力と、英語学・言語学、英米文学、ドイツ文学、フランス文学の基礎学力を、提出書類（卒業論文あるいは研究計画書）および筆記試験、口述試験に基づき評価します。

一般選抜

筆記試験では、専門科目（英語学・言語学、英米文学、ドイツ文学、フランス文学）を課し、専門分野に関する基礎知識、専門に係わる言語で書かれた文献を読み解く力、論理的に思考し的確なことばで表現する力を測ります。口述試験では、志望動機、研究計画、社会に対する問題意識と課題に取り組む意欲、言語コミュニケーション能力を評価します。

社会人特別選抜

筆記試験では、専門科目（英語学・言語学、英米文学、ドイツ文学、フランス文学）を課し、専門分野に関する基礎知識、専門に係わる言語で書かれた文献を読み解く力、論理的に思考し的確なことばで表現する力を測ります。口述試験では、志望動機、研究計画、社会に対する問題意識と課題に取り組む意欲、言語コミュニケーション能力を評価します。

外国人留学生特別選抜

筆記試験では、専門科目（英語学・言語学、英米文学、ドイツ文学、フランス文学）を課し、専門分野に関する基礎知識、専門に係わる言語で書かれた文献を読み解く力、論理的に思考し的確なことばで表現する力を測ります。口述試験では、志望動機、研究計画、社会に対する問題意識と課題に取り組む意欲、言語コミュニケーション能力を評価します。

6年一貫教育プログラム特別選抜

書類審査により、6年一貫教育プログラムのもとで行われた調査・研究状況、今後の研究展望、主体的に学ぼうとする意欲を評価します。